

改訂版「蝶々夫人」

「蝶々夫人」として知られるブッチーニのオペラ「マダム・マダム」・パタフライ。明治の長崎を舞台に米国人海軍士官と芸者蝶々さんとの悲恋を描いた名作だが、日本についての誤った表現にあふれているという。「百年以上も海外で日本を誤解させ続けた」と、その「訂正」に立ち上がったのはオペラ歌手の岡村勲生さん(60)。改訂版を来夏、本場イタリアの音楽祭で上演しようとする西走している。

(出田阿生)



岡村勲生(右)は、東京千代田区で、食卓で質問するオペラ歌手の岡村勲生(左)。

名誉回復

「オレは国粋主義者でも宗教家でもない。ただ、オレはオレの国のこととを正しく知ってほしいんだよ」。岡村さんは深いバリトンでこう話す。口ひげをたくわえ、開襟シャツから金のネックレスがのぞく。

カ月の歌者としてかえりなかつた米国人士官の擦れ違ひ。「マダム・パタフライ」は「露骨な西洋から来た男の貧しい精神。世界に知られぬ東洋の小国の高貴な女心。それらを対比させた傑作」(岡村さん)だが、宗教

や習慣、固有の語彙など、日本を事実認識した部分が多すぎるといふ。自らこの作品を演じることもあった岡村さんが「衝撃だった」という例を挙げてみる。

【カミサルンダシー】主人公の蝶々さんは米国人士官と祝言を挙げるにあたって、夫の宗教に従おうとキリスト教に改宗する。そこへ蝶々さんの伯父で僧侶のボンソーが登場。改宗へのしつて叫ぶ言葉が「カミサルンダシー」だ。

岡村さんは留学先の口を開いて「おー神」

蝶々さんの侍女スズキが、蝶々さんを罵倒した士官のピンカートンに向かつて歌う場面。「賢人オクナマ」

「マ」で教師に「この言葉はどんな意味か」と聞いたが「日本人に分らないのに、私を知るわけない」と言われた。考えるうちに「かみ・さるだひこ、つまり狼田彦じやないか」と思い当たった。しかし、なぜ僧侶が日本書紀や古事記に出てくる神の名を叫ぶのか、全くのナンセンス。

欧州の歌劇場でオペラ歌手として活躍。帰国後はテレビ番組の司会者なども務めた。今もバリバリの現役だ。

愛ある結婚を信じた十五歳の日本人芸者と、数

待

ち

続

日本人オペラ歌手が執念

芸者さんと異人、害が絶む舞台といひ「唐人お直」もあつた。こちらは実話が基盤の本人の作。異人の地妻」とされ、その「唐人」と石を投げた女性が生けす。歌米人が蝶々夫人、オレの良心を問うた。これ、お吉はムラサキの裏面史。この道徳話ではない。(出田阿生)

マダム・マダム

杯をあげながら、士官カーンと「オクナマ(神)、オクナマ」をうたう。たとえ神前式とて得ない光景だ。

【イサキイサキ】士官ピンカートンは、結婚後、すぐに米国に帰る。たまたま、便りもよさしい。侍女スズキは蝶々し心蝶々さんの姿を祈りをささげる。そり「イサキイサキ」。古事記に出るいざなぎ、いざな神のことか。「テン、ウツイさま」といふまで登場。ちなみには手は仏前で折っている。ほかにも長崎の「大村」は「オマー」になったりしている。

こちら特報部

ちよんまげ姿の僧侶、長崎に富士山…

は富士山が
そびえてい
かた。長崎
の背後に
は富士山が
そびえてい

音楽学校に留学。その後、イタリア、ドイツ、オーストリアで約二十年間、オペラ歌手として活躍した。当然、「蝶々夫人」にも出演してきたが、舞台演出も読解者らだけで「日本人として歴史的な経験を重ねた」といふ。

蝶々夫人が「これが日本女性のたしなみよ」と説明しながら、たもとから仏像を取り出す。まるで娘のすみかのように蝶々夫人の家が樹木の枝の中につくられているという舞台まであった。

「マママ・パタフライ」が初演されたのは、一九〇四年「スカラ座」で「お江戸日本橋」など日本の旋律も盛り込まれ、当時欧州で流行したジャポニスムを彷彿させる。岡村さんは「作曲家は遠い極東の国を訪れた」ともいふ。当時、その調子が百年以上も放置されているのはおかしい。と憤る。どうして旋律には手を付けないが、歌詞やト書き十一カ所を直した「改訂版」蝶々さん一を完成させた。

市民にオペラを身近に感じてもらおうとのNP「みんなのオペラ」の芸術監督でもある岡村さんは、このNPの公演で、二〇〇三、〇四年に改訂版を上演。それがイタリア政府の文化担当官の目に留まり、同国の著名な音楽祭「ブッチーニ・フェスティバル」での上演が決定した。

来夏、イタリアのトッレ・テル・ラーゴにある新野外湖畔劇場で開かれる公演は、海外で初めての「訂正」のチャンスとなる。先月末に東京都内で公演の日本人出演者本人はそれに気が付かない

十二人のオーディションを開催。蝶々さん役に愛知出身の歌手「宮咲子」さんが選ばれた。

「オペラは白人至上主義。西洋の国々が世界中に植民地をかけた時代に流行した。当初は観客は欧米人だけだったから問題はなかったろう。しかし、日本でもこれほどオベラが普及した現在、なぜ嫌悪感すら覚えるような誤りが直されないまま

「交通が発達したとしても、日本人が思っているほど日本は世界に知られていない」というのが海外生活が長い岡村さんの実感だ。「音楽は世界共通の文化。蝶々さん、日本人や日本文化のことを世界中に知らせたい。外交官、はいない」だからこそ、この改訂版を広めたい。昨年イタリアで上演するはしたが、資金難で目下、目下の懸案も一万円のカンパ集めだ。演やカンパについては、問い合わせは、みんなのオペラ事務局「電話03(3)9413552」。

「ある晴れた日に」名。あらすじは芸者蝶々が、米国人警官ビンセントの「現地妻」となるが、夫はすぐに帰国。3年続けたが裏切られ、も手放す羽目となり、



100年の誤解



NPO「みんなのオペラ」が2004年に上演した改訂版「蝶々さん」一東京都江東区のティアラホールで（山口利明氏撮影）



改訂版「マママ・パタフライ」のオーディションの子一東京都千代田区で

イタリア公演「訂正」のチャンス

蝶々夫人 1900年、米国の劇作家ベラスコが脚色した舞台を見たブッチーニがオペラ化を思い立ったとされる。原作は米国人作家ロングの短編小説「蝶々夫人」。フランス人作家ロディの

「か」と岡村さん。でも、日本人が思っているほど日本は世界に知られていない」というのが海外生活が長い岡村さんの実感だ。「音楽は世界共通の文化。蝶々さん、日本人や日本文化のことを世界中に知らせたい。外交官、はいない」だからこそ、この改訂版を広めたい。昨年イタリアで上演するはしたが、資金難で目下、目下の懸案も一万円のカンパ集めだ。演やカンパについては、問い合わせは、みんなのオペラ事務局「電話03(3)9413552」。